

能代市 令和3年度完了報告書

令和3年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次のとおり提出します。

1. 調査研究概要

(1) 調査研究の内容

能代市は、全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査の教科の調査において、県平均を上回るなど良好な状況が続いている。質問紙調査においても、自尊意識や規範意識、地域との関わり、学習意欲等の項目で肯定的回答の割合が高く、特に、授業内での発表、話し合い、振り返りへの取組については、9割以上の児童生徒が肯定的回答をしている。このことより、各校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が進んでいると捉えている。

市内各学校では、教科や学年の壁を超えた全校体制での授業改善が伝統的に行われており、教科横断的な教育課程編成等への基盤が整っていると認識している。

令和2年度からは中学校区を基本単位とした「コミュニティ・スクール」を導入し、これまで以上に地域の教育力を教育課程に活用しながら、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めている。「コミュニティ・スクール」の仕組みを活用し、「社会に開かれた教育課程」の視点を基に、学校と地域が連携したカリキュラムを強化するなどカリキュラム・マネジメントを推進していこうとしているところである。

このような本市において、カリキュラム・マネジメントに関して特色ある取組をしている次の3校を、調査研究のための実践校として選定し調査研究を行ってきた。

◆能代市立第四小学校◆

目指す子ども像「あかしやの子」を設定し、その実現に向けて「見通す・学び合う・振り返る」の過程を意識した共通実践への取組や、授業研究会を核とした教師の学び合いによる授業改善に取り組む。

◆能代市立能代第二中学校◆

教科の枠を超えた協働研究に取り組み、P D C Aサイクルをもとに教科横断的な視点から授業改善するとともに、新学習指導要領の趣旨を生かし、「見方・考え方」を働かせた「学び」と「振り返り」の共通実践に取り組む。

◆能代市立ニツ井中学校◆

地域学校協働活動推進員を活用しながら「地域に開かれた特色ある学校づくり」を推進しており、令和元年度文部科学省「小・中学校等における起業体験推進事業」を継承し、コミュニティ・スクールの機能を生かしながら地域創生等を基軸とした特色ある教育活動に取り組む。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取 組 内 容	
	実 践 校	事 務 局
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度研究計画立案 ・実践校におけるカリキュラム・マネジメント研究・実践（～3月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究計画書作成・提出
5月		
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問説明（6/7：能代第二中・ニツ井中 6/11：第四小） 	
7月		<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント連絡協議会（7/2：文部科学省主催）
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント検討用シートによる自己評価の実施① 	<ul style="list-style-type: none"> *教育情報誌「ふいご」による情報提供
	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回カリキュラム・マネジメント検討会議（8/20） 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回検討会議後の研究・実践 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント事業に係る実地調査（10/27 能代第二中学校） 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・県内先進校視察（11/17 由利本荘市立西目中学校）実践校より2名ずつ参加 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回カリキュラム・マネジメント検討会議（12/17） 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント検討用シートによる自己評価の実施② ・完了報告書（実践校）の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・完了報告書（事務局）の作成
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回カリキュラム・マネジメント検討会議（2/15） ※コロナ蔓延のため、書面開催 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・完了報告書（実践校）を市教委に提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメント中間報告会（2/17：文部科学省主催） ・調査研究完了決算書・調査研究完了報告書のまとめ
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度のまとめと次年度の方向付け 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究完了決算書・調査研究完了報告書の提出

2-1. 調査研究の内容

学校名 能代市立第四小学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

①重点項目の設定

本校の学校教育目標は「夢を育み、生き生き学ぶ『あかしやの子』の育成」である。目指す児童像を次のように設定し、それぞれに年度毎の重点項目を設けた。

- ・あいさつがよく、礼儀正しい子（重点項目：相手の目を見てあいさつする。）
- ・体を鍛え、命を大切にする子（重点項目：けが病気、事故や災害から身を守る。）
- ・しんぼう強く学び励む子（重点項目：学び合い、高め合う。）
- ・やさしさを行いで表す子（重点項目：誰かのために役立つ行いをする。）

②学校教育目標等の「設定とビジョンの共有」

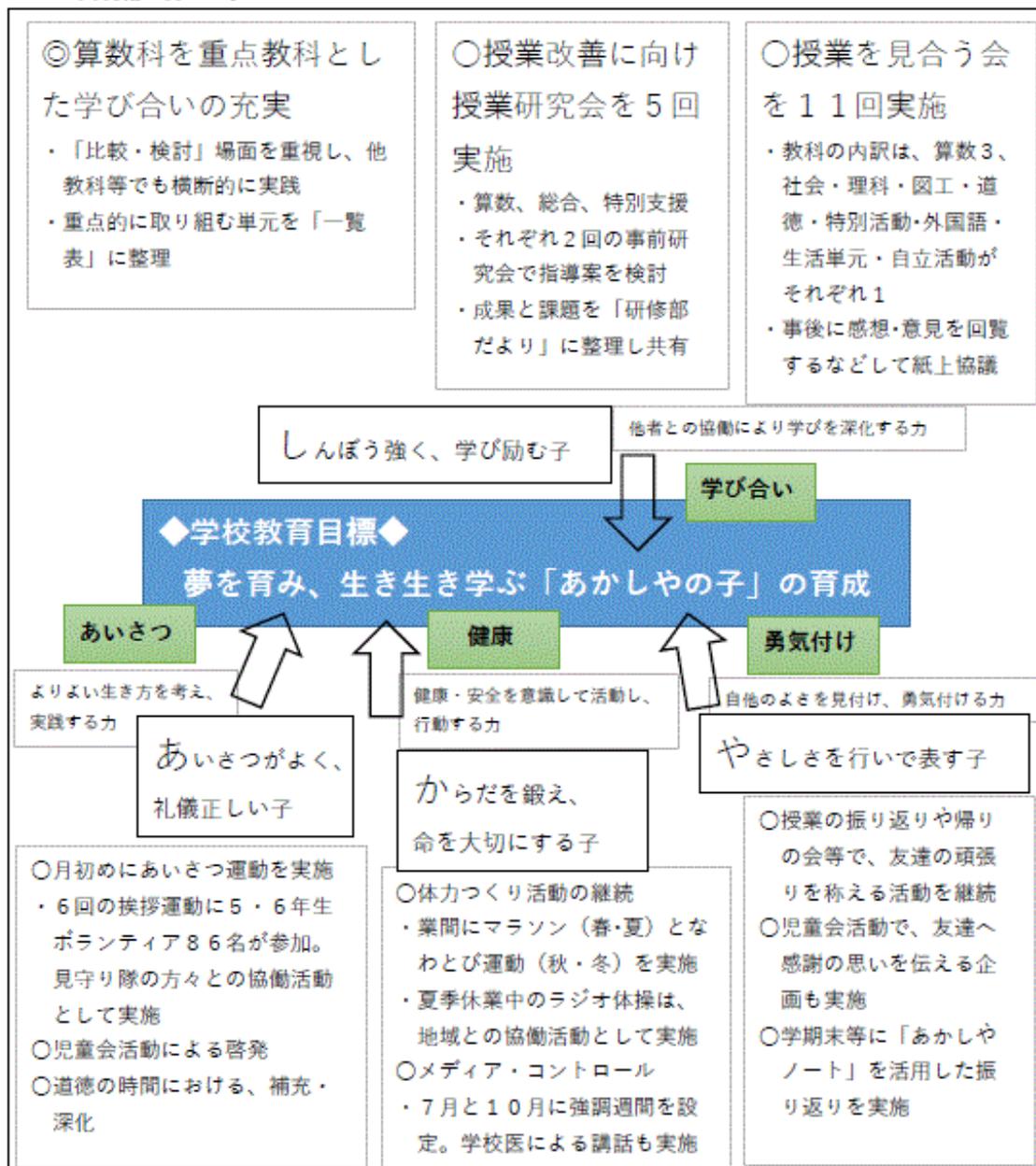
- ・校内 →前年度の反省を基に学校経営の方針を構想し、各指導部・学年部の経営案とリンクさせた。
- ・保護者 →経営方針をPTA総会等で説明し、学校報等で周知を図った。
- ・学校運営協議会 →経営ビジョンを提案し、承認と助言を得た。

③学校教育目標等の「具現化に向けた取組」

- ・重点的な取組を整理し、各主任がリーダーシップを発揮できるよう校内体制を整えた。
- ・学校教育目標等の実現に向け、重要となる各教科等の内容を選択し、教育内容を教科等横断的な視点で組織した。
 - 目指す児童像4項目と関連付け「本校で育てたい資質・能力」を設定した。
 - 「育てたい資質・能力」の育成を目指し「要となる教科等」をそれぞれに設定した。
 - 特定の教科で「重点的に取り組むこと」と「教科等横断的に取り組むこと」を整理した。
 - 「授業改善のポイント」を設定し、重点教科を中心に各教科等で横断的に実践した。
- ・地域との連携が必要な活動については、地域学校協働活動として行った。

調査研究における実践内容 ～令和3年度にやれたこと～

(1) 目指す児童像に沿い、4つの「育てたい資質・能力」を設定して具体を進め、学校教育目標の具現化に努めた。



(2) 諸調査と保護者アンケート等の結果から、児童・保護者の意識の変容を捉えることができた。

(3) 次年度に向け、「育てたい資質・能力」の見直しと児童等に示すキーワード(手立て)の設定を全職員で行った。

④学校教育目標等の実現状況に係る「評価」

- ・ 諸調査やアンケート等の調査項目から、評価指標を適切に設定した。
- ・ あきた型学校評価を基盤として、職員による自己評価・保護者アンケートの結果を踏まえた改善等を行いながら、PDCAサイクルを適切に構築した。学校教育目標等の「設定」「具現化」「評価」の各段階において、学校運営協議会委員等と連携を図った。

調査研究における評価項目と結果の一覧 ～児童・保護者の反応～

項目		評価項目	令和2	令和3	令和4	
			現状	目標値	目標値	
				結果	結果	
1	あ	保護者アンケート項目8「子どもたちはあいさつがよく、礼儀正しくなっていると思う。」の肯定的評価の割合(%)	82.9	85.0 89.4 ○	90.0	
2	か	保護者アンケート項目9「子どもたちは体を鍛えようと努力し、命を大切にしていると思う。」の肯定的評価の割合(%)	86.3	90.0 93.1 ○	90.0	
3	し	保護者アンケート項目10「子どもたちはしんぼう強く学び助んでいると思う。」の肯定的評価の割合(%)	90.1	90.0 92.5 ○	90.0	
4		★学習	県学習状況調査の通過率における県平均との比較(4年3教科・5年4教科・6年4教科・計11教科のうち、県平均を上回っている教科の数)	8/11	11/11 8/11 -	11/11
5		★学習	県学習状況調査・質問紙調査「ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動に進んで取り組んでいると思う。」の肯定的回答の割合 ↑(質問の内容に変更あり) <参考>令和2年度・質問紙調査「ふだんの授業では、自分の考えを発表する機会があると思う。」	4年85.6 5年80.4 6年92.9 (86.3)	90.0 4年100 5年93.5 6年93.0 (95.5) ○	90.0
6		★学習	県学習状況調査・質問紙調査「ふだんの授業では、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思う。」の肯定的回答の割合(%) ↑(質問の内容に変更あり) <参考>令和2年度・質問紙調査「ふだんの授業では、話し合う活動をよく行っていると思う。」	4年90.4 5年87.4 6年96.4 (91.4)	90.0 4年96.9 5年86.8 6年80.0 (87.9) △	90.0
7	や	県学習状況調査・質問紙調査「自分には、よいところがあると思う。」への肯定的回答の割合(%)	4年81.9 5年74.7 6年80.0 (78.8)	85.0 4年81.8 5年84.4 6年76.5 (80.9) ○	90.0	
8		★生徒保護	保護者アンケート項目11「子どもたちはやさしさを行いで表していると思う。」の肯定的評価の割合(%)	89.5	90.0 93.1 ○	90.0
9	基盤	保護者アンケート項目13「学校は地域から学び、地域に貢献する活動をしていると思う。」の肯定的評価の割合(%)	91.4	95.0 94.7 ○	95.0	
10		★連携	保護者アンケート項目20「学校と家庭・地域との連携は、よくなされていると思う。」の肯定的評価の割合(%)	88.6	90.0 89.8 ○	90.0

★あきた型学校評価(学校関係者評価)で取り上げている評価項目

◎現状の数値と目標値を上回った項目

○現状の数値を上回った項目

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策 (○: 成果、●: 課題)

○●学校経営目標の具現化を目指し、目指す児童像から「育てたい資質・能力」を設定し前年度の反省を踏まえて重点項目を示した。各主任が、学年や指導部の経営案に重点項目を反映させ、具体を進めた。次年度の構想にあたっては、職員の参画意識を一層高めるため、目指す児童像に繋がる「育てたい資質・能力」の内容・文言の見直しと児童等に示すキーワード(手立て)の設定を、学校評価に合わせ全職員で行った。

- 重点項目に沿い、具体的な活動と年度途中の評価があり、児童の変容に繋がった。
- ・「他者との協働により学びを深化する力（キーワード：学び合い）」の具現化については、重点教科である算数科の「比較・検討」に係る指導を要とし、他の教科等においても重点的に取り上げ、横断的な取組とすることができた（一覧を作成・整理）。また、「くらべる」という言葉が、その手法とともに児童に定着した。
 - ・その他のキーワード「あいさつ」「健康」「勇気付け」についても、具体的な取組が継続的に行われた。児童会活動において創意ある取組も生まれてきた。
- PTA行事や通信等で、学校経営方針・重点、進捗状況等を繰り返し伝えることで、保護者の肯定的評価が高まった。学校運営協議会でも、有意な意見をいただいた。
- 生活科・総合的な学習の時間や他教科等の学習における地域人材の活用等については、一層児童の学びの充実につながるよう、特に総合的な学習の時間の内容を見直したい。3年生以上で「特徴的な一単元」を整理・開発することを目指し、教科等との繋がりも明らかにして、令和4年度以降のマネジメントに生かせるようにしたい。
- 目指す児童像4項目に沿い、4つの「資質・能力」の育成について具体を進めながら学校教育目標の具現化に努めてきた。研究の方向性としては、やや拡散的であったが校内において、一人一人の児童の多様性に目を向けながら、「よき伴走者になろう」という意識を共有したり、「児童の変容を促すためには、（言葉だけではなく）具体的な活動が必要」という認識を確認したりするために、効果的だったと感じた。

（４）実践校における年間実施スケジュール

月	取 組 内 容
4月	職員会議（学校経営方針の説明、調査研究事業の共通理解）、PTA総会
5月	学校運営協議会Ⅰ（学校経営方針の承認）、事前研究会Ⅰ
6月	授業研究会Ⅰ（算数）
7月	学校運営協議会Ⅱ（評価指標等の検討）、保護者アンケートの実施と結果の公表
8月	学校評価（職員による「中間評価」）、カリ・マネ取組一覧表の作成準備
9月	カリ・マネ取組一覧表の作成
10月	事前研究会Ⅱ・Ⅲ、学校運営協議会委員
11月	授業研究会Ⅱ・Ⅲ（総合、算数）
12月	保護者アンケートの実施と結果の公表
1月	学校評価（職員による「成果と課題の整理」、次年度のビジョン作成）
2月	学校運営協議会Ⅲ（今年度の評価）、職員会議（調査研究事業のまとめ）
3月	次年度に向けた諸準備

2-2. 調査研究の内容

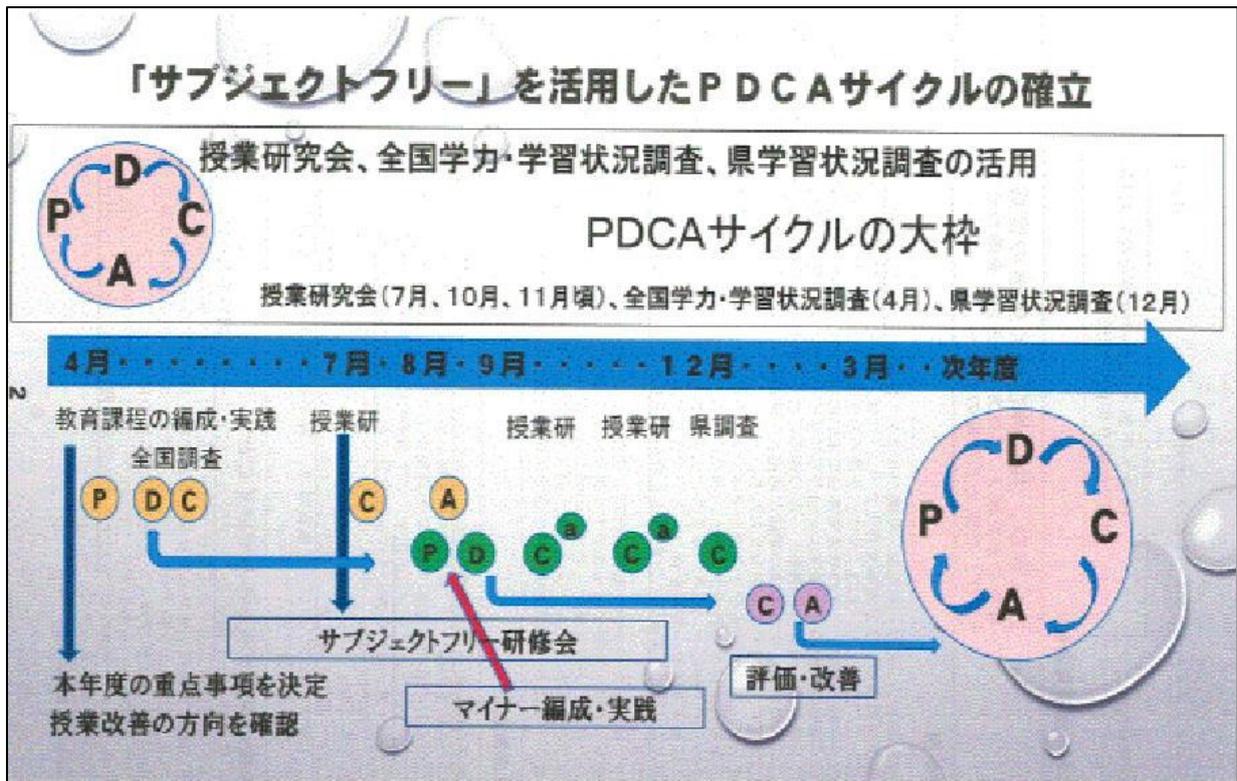
学校名 能代市立第二中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

①協働研究「サブジェクトフリー」の方針設定



「サブジェクトフリー」を活用したPDCAサイクルのイメージ

4月から5月にかけて「教科の壁を越え、『見方・考え方』を働かせて『学び』を深める」学習指導を協働研究していく「サブジェクトフリー」の方針を設定した。研究の重点として、授業の中で次の二つの視点をもつこととした。

- 視点1 「見方・考え方」を働かせながら自分で考え、互いに伝え合うの場の設定
- 視点2 深めた「学び」を振り返り、改善する指導の在り方

また、イメージとして次の図や学習活動例を示し、生徒にも学習部報と教室掲示で授業方針を知らせるようにした。

「見方」は視点を与える
メガネ
グラス
スコア



「考え方」はゴールに向かうための車
例 比較
分類
統合



- 【学習活動例】
- ①「比較・検討」して考える・再考する
 - ②「論理的な説明」順序・筋道を立てて考え、表現する。
 - ③「総合的・発展的思考」…学び・振り返りから新たな問題を発見し、考察範囲を広げる。
 - ④「既習事項・生活体験の想起と活用」…関連付け、組み合わせて思考・表現する。

- 【学習過程としての例】
- ①知識を関連付けてより深く理解する学習
 - ②情報を精査して自分の考えを形成する学習
 - ③問題を見付け自分としての解決策を考える学習
 - ④自分の思いや考えを基に創造する学習

能代第二中学校 R3学習部
「見方・考え方」を働かせよう
～君の「学び」は深まる！～
What do you think? しんぞう?

◎自分で考え、互いに伝え合う場面

○「こんな視点もあるのか。でも□□の視点から考えると◇◇だよな」

○「□□さんの考えと比べると、自分は◇◇だよな」

○「あ、そう言えば、前の～学習では…」

◎学びを振り返り、改善する場面

○「今日の学習を生かして問題を解くとこうだな」

○「やっぱり△△するやり方よりも、□□するほうがいいよな」

○「今までの学習から考えてこんな課題があるよな」

○「そうか、実際に活用すれば、こうだな」

☆総論 ☆素作文 ☆実践 ☆話し ☆スピーチ

授業の中で、確実に君たちの力は伸びる！

② 1学期の振り返りと2学期における研究の「マイナーチェンジ」

1学期の取組についての「振り返り」アンケート結果から、視点2「深めた『学び』を振り返り、改善する指導」が課題となっていることが分かり、次のように改めた。

視点2 どんな「見方・考え方」を働かせたのか。深めた「学び」（学びの本体）を振り返り、改善する（次の学びにつなげる）指導の工夫

また、視点2も含めて、全教員が授業づくりに参加し、協働研究するサブジェクトフリーを推進するために、授業研において参加メンバーを混合して入れ替えながら模擬授業を行うことで意識強化を図った。さらに「授業を見合う週」や普段の授業で「サブジェクトフリー」を生かして取り組んだ授業づくりを研究部報で紹介し、実践と意識の共有を図った。



みち 号外13
「見方・考え方」を働かせて「自分で考える」学習場面

「授業を見合う週報」の企画がありどうに思いました。研究授業だけでなく、目的の生きた授業実践が本校の「サブジェクトフリー」を牽引していることを実感しています。あっとだけ紹介します。お互いの授業づくりのヒントを改めてご確認ください。

◎国語：三浦先生の授業から
○「竹藪物語」の5人の貴公子の話を高く、1人を選んで紹介する。（発展的・総合的思考）

◎理科：斎藤先生の授業から
○道具と仕事の大きさの関係について予想を立てて実験・検証する。（「視点」をもたせた学習課題）

◎音楽：小森先生の授業から
○「新編 藤十郎」で議論し、自分たちの改善点を話し合う。（総合的・発展的思考）

◎音楽：大塚先生の授業から
○歌曲「魔王」の歌詞をグループで朗読し、互いに感想を交換する。（比較・検討）

「見方・考え方」を働かせて考えたことを「互いに伝え合う」場面

どんな「見方・考え方」を働かせたのか。深めた「学び」を振り返り改善する場面

◎英語：藤原先生の授業から
○模擬授業を録って能代で紹介する文章を修正し、改善する。（総合的・発展的思考）

◎社会：佐藤先生の授業から
○「三日月の夜」を3つの視点から考え、さらに考察範囲を広げる。（総合的・発展的思考）

◎数学：近藤先生の授業から
○「相似の図形を合同の既習事項から考え直す」（既習事項の活用）

◎家庭科：八田先生の授業から
○「魔法料理」について学習したこと、さらにSDGsの視点から高次考する。（生活体験の想起）

もったくさんの授業参加のしかなかったのですが、次の機会とします。お互いの授業づくりに刺激を受けながら、「サブジェクトフリー」を牽引していきたいですね！

「カリキュラム・マネジメント」は、学校の教育計画をマネジメントして、教育活動の質を向上させることであると捉えている。教員は学習主任、学年主任、教科部長、教科長をそれぞれが担当することになり、またサブジェクトフリーを行っている。また、今日のカリマ、今日のカリマ、などという時の中でいろいろな活動も行う。また、各サブジェクトフリーを行っている。その一つ（例）を挙げて、具体的に学校教育目標に向かって取り組んでいくことと捉えたい。

……佐藤校長先生の言葉が「あはれ」に響いていました。一つ一つが私たちのメッセージであり、指針となります。「サブジェクトフリー」は二学期の協働研究であると同時に、私たちが一人一人が磨きあげて、よりよい学校づくりに貢献する重要な役割を担っています。一人一人が磨きあげて、よりよい学校づくりに貢献する重要な役割を担っています。明日を生きる生徒の育成、を担うべく、教員集団で取り組まなくてはなりません。

③3学期「サブジェクトフリー」の進展と可能性

2学期の振り返りを受け、これまでの実践を生かした最後の授業研（道徳）を全員参加で行った。タブレットパソコンと電子黒板を活用しながら「比較・検討」「総合的・発展的思考」の場を設定した授業で、特に「新たな視点をもった発問」について協議を深めた。リモートによる授業参観とワークショップ型の研究会は、全員参加で行う研究会の可能性を示唆した。



(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策（○：成果，●課題）

○学習を基盤となる資質・能力の育成に向けた研究に取り組むことで、たくさんの教員が共通実践を意識して授業に取り組むことができた。

<アンケート結果から>

共通実践	1学期	2学期
比較・検討して考える・再考する	7名	14名
論理的な説明（筋道を立てて考え表現する）	6名	7名
既習事項・生活体験を想起・活用し関連付ける	11名	14名

○教員の意識改革が見られ、共通実践に取り組みながら授業改善に向けた授業の構築が進められた。

<アンケート結果から>（研究と重点から：4段階評価）

アンケート項目	1学期	2学期
自分で考える学習場面の設定	2.8	3.4
考えたことを互いに伝え合う学習の場の設定	3.1	3.4
深めた学びを振り返り、改善する場の設定	2.7	2.9

○授業改善により、学習状況調査の生徒質問紙ではすべての質問で県平均を大きく上回った。また、5教科の学力も県平均をほぼ上回っている。

●授業改善の視点から、次の3つの項目が比較的低い結果となった。今年度の研修の振り返りを今一度整理し、共通実践内容を全職員で確認して、来年度に引き継いでいきたい。

- ・「どんな見方・考え方を働かせたか。深めた学びを次につなげる振り返り」の場の工夫
- ・振り返りから新たな問題を発見し考察範囲を広げる、総合的・発展的な授業の構築
- ・「タブレット」を活用した授業づくり

●県学習状況調査から、県平均を下回った課題について分析し、学習効果が現れる授業改善に向けて研修を深めていく。

●本取組を校訓や学校目標と関連付けることにより、教員・生徒とともに進める「サブジェクトフリー」を構築していきたい。そのために、校訓である「自主・不屈・友愛」を意識した授業作りを積極的に提示して働きかけ、学習効果をねらっていく。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取 組 内 容
4月	研究方針の策定
5月	第1回授業研究会 方針についての確認と指導助言 全国学力・学習状況調査
6月	
7月	1学期の振り返り
8月	2学期以降の研究のマイナーチェンジ 全国学力・学習状況調査の分析と対策
9月	第2～4回授業研究会における実践
10月	「カリキュラム・マネジメント調査研究」実地調査
11月	授業を見合う週間
12月	県学習状況調査
1月	県学習状況調査の分析と対策 年度最後の授業研究会
2月	年度のまとめ 次年度に向けて
3月	次年度に向けた諸準備

2-3. 調査研究の内容

学校名 能代市立二ツ井中学校

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

①持続可能な二ツ井地区の構築を目指すという視点からの「きみまちカンパニー」

◆活動の見直し

- ・「学校運営協議会の意見」や「地域創生等に生かす資質・能力の育成」

→「きみまちカンパニー」の取組を通して資質・能力の育成を目指す

- ・二ツ井町が抱える課題の発見

社長から提言「地域を元気にする活動がしたい」「将来のために会社の経営や組織について学びたい」

→小中合同による話し合い（気付き）、二ツ井町前町長丸岡さんの講話、地域で働いている人たちの声を聞く



◆各事業部ごとの活動

- ・児童生徒で、取り組むべきことや取り組みたいことについて検討
→地域の方からのアドバイス
事業部長が集まり、今後の活動について紹介&アイデア交換・・・2学期の活動へ

◆10月30日のフェスティバルに向けた体験&協働活動の実施

- ・田んぼ見学 ・試食 ・カヌー体験
- ・高齢者と粗品作り ・認知症サポーター資格獲得
- ・おにコン（おにぎりコンテスト） ・キャラクター考案
- ・会社ロゴマーク募集&決定 ・各種ポスター作成
- ・特産品や地元の食材を使った商品開発（地元企業コラボ）
- ・地元団体（観光協会、きみまち商店会、商工会、道の駅）との協働

◆「きみまちカンパニーフェスティバル」の開催

- ・空き店舗を、各事業部の活動（発表）の場として利用
- ・きみまち商店会を歩行者天国に ・伝統芸能の発表
- ・「道の駅ふたついで」で催し物（フリースロー大会）開催
- ・道の駅からの誘客を目指しシャトルバスを運行
※PTAの協力が絶大

◆小中合同による振り返りの会の開催

- ・「成果」「課題」「提言」という形で、各事業部ごとにまとめて発表
- ・児童生徒の振り返りだけでなく、「来場者」「協力した地元企業」「保護者」など、様々な方々からの意見を収集し、様々な視点や立場で今回の活動を批評した。

*来年度に向けて

- ・「学校運営協議会」からのアドバイス&「地域学校協働活動推進員」との連携

②PDCAサイクルの確立に向けて～児童生徒、及び職員の変容の調査

◆児童生徒の事前事後のアンケート調査を精査

- ・目指す生徒像に近付いているか ・資質・能力の育成は図られているか
- ・来年度（今後）に向けて、考慮すべき点は何か
- ・「持続可能」な活動であるために、見えてくることは何か

◆職員の「カリキュラム・マネジメント」に対する理解を深める

- ・教育の質的向上となっているか ・「持続可能」な活動であるためには…
- ・カリマネに取り組む意識は…

生徒が主役・教師は黒子



③教科横断的なマネジメントを目指して

- ・総合的な学習の時間（きみまちカンパニー）の活動を中心に据え、その活動と各教科とのつながり、また学校行事とのつながりを可視化するため、一覧表を作成した。
- ・コミュニティ・スクールとの関わりが見えるように、特別に欄を設けた。

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策（○：成果、●課題）

- 活動を終えた生徒たちから、「自分たち中学生（小学生）にも、大人を動かすことができるんだ」「人を動かして、町を元気にすることができるんだ」という声を聞くことができた。今後の人生における、大きな自信につながった。
- 「9教科で学習したことが活動に生きていると感じた」と話す生徒がいた。まさに、総合的な学習の時間の目標が達成されている状態である。
- 教師が黒子となり、生徒が前面に出て活動することができた。生徒（児童）のアイデアを引き出し、その中から可能な案を絞り、実施に向けて動くことができた。もちろんその陰では、教師による協力者との意見交換や相談等が何度も行われており、そのことが生徒たちの活動を支えた。
- 生徒たちの自己評価の他に、生徒たちの活動や取組について、多方面（来客者、保護者、協力事業所等）から賞賛の声を頂き、評価として活用した。その評価を生徒たちに伝えることで、生徒たちが自信をもつことにつながり満足感に至った。多面的な評価にもつながることができた。
- 地元企業がたくさん協力してくれて、大変助かった。地元にとっても学校にとっても利益の大きい事業となった。
- ゴールを見通した活動計画の立案、活動ができなかった。ゴールまでの計画を見ながら授業を進める教師にとって、途中の過程が示されていないため、かなりの不安や多忙を感じながらの活動となってしまった。中学校側の計画を受けて活動する小学校側としては、更に先の見えない活動となってしまったのではないだろうか。
しかし、詳細な計画を立てるより、とにかく行動を起こし、活動の中で方向の修正を行うなど、その場その場で判断し、試行錯誤を繰り返しながら取り組んでいくことも大切である。
- 小中連携の面では、かなりの困難があった。当然のように時程が違うため、中学生が小学校に移動する場合、3校時分を充てても実際の合同活動時間は70分程度しか確保できない。スクールバスの有効活用など検討する必要がある。
- 10月は活動日が毎週設定され、教師側に多忙感が残った。また小学生に対しては、より詳細な計画や連絡が早い段階で求められるため、次週の計画を急ぐことになった。活動日を隔週で設定することで回避できるのではないか。
- この活動による「目指す生徒像」の設定ができていなかった。学校教育目標と関連付け、どのような力を生徒に身に付けさせたいのか、また身に付けた生徒の具体的な姿をイメージし、今年度にうちに明確化し共通理解を図りたい。
- カリキュラム・マネジメントは全職員で取り組んでいくものであるということを、再度確認する必要がある。多忙化を解消しつつ、教育の質的向上を図ることを目指す。
- 試作品にかかる費用、試食にかかる費用、ポスターやシール、パンフレット等の印刷費、

謝礼等、きちんと予算化すべきある。ただ、試行錯誤を繰り返し、修正を加えながら活動していくと、どうしても予定外のことが起きてくる。その辺にも対応できる予算化を考えなくてはいけない。

- 振り返りアンケートの項目を考え直す必要がある。育てたい資質・能力に直結する項目である必要がある。また、生徒による生徒のアンケート項目を取り入れ、自分たちの活動を第三者の目で評価していただく点を盛り込みたい。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取 組 内 容
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度の方向性について、生徒会三役と会議 ○職員会議で、「小中連携による地域創生事業」実施について、社長案を提案 <ul style="list-style-type: none"> ・地域を元気にする活動がしたい・将来のために会社の経営や組織について学びたい
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会三役と取り組む事業と組織図について検討 <ul style="list-style-type: none"> ※中学 1 年生…ふるさと再発見（きみまち阪を探訪）
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ○カンパニー総会 <ul style="list-style-type: none"> ・社長（生徒会長）から今年度の活動について発表 ・前二ツ井町長丸岡一直氏の講話…「二ツ井町の記憶～ふたつ遺産を探して～」 ○各事業部会…二ツ井町の課題点を出し合い、取り組みたい事業をたくさん出そう <ul style="list-style-type: none"> ・事業部ごとに、地域の課題と取り組む活動内容について検討 ○カンパニー合同会議 <ul style="list-style-type: none"> ・取り組む事業についてアドバイスを頂き、事業内容を絞ろう ・チームリーダーの紹介 ・協力者の紹介 <p style="text-align: right;">※小中職員打ち合わせ</p>
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ○取締役会 <ul style="list-style-type: none"> ・事業部長（児童含む）から、ここまでの活動報告と質疑応答、アイデア交換 ○カンパニー合同会議 <ul style="list-style-type: none"> ・9 月、10 月の活動について話し合い <ul style="list-style-type: none"> ※田んぼ見学（農業）、カヌー体験（観光） ○終業式において、「きみまちカンパニー ロゴマーク」と「おにコン～おにぎりコンテスト」の公募発表
8 月	<p style="text-align: right;">※小中職員打ち合わせ、商店会臨時理事会</p>
9 月	<ul style="list-style-type: none"> ○小中合同活動 <ul style="list-style-type: none"> ・フェスティバルに向けて準備 <ul style="list-style-type: none"> ※職場体験
10 月	<ul style="list-style-type: none"> ○小中合同活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター、商品シール、のぼり等の作成 ・現地視察とセッティング考案、リハーサル <ul style="list-style-type: none"> ※小中職員打ち合わせ、PTAへの依頼、特別活動授業研究会 ○きみまちカンパニーフェスティバル開催 <ul style="list-style-type: none"> ・駅前商店街（空き店舗を借用）、道の駅ふたついで開催 ・各事業部ごとにイベント実施

11月	○振り返り ・児童生徒への振り返りアンケートの実施 ・保護者、来場者、協力者（商店会、観光協会等）へのアンケート実施
12月	○カンパニー合同会議 ・今年度の振り返りと来年度に向けて（改善策の提案）
1月	次年度に向けた諸準備
2月	
3月	↓

3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（○：成果，●：課題）

- 新しいことに取り組むのではなく、今まで取り組んできたことを意味付け、価値付けすることにより、教職員一人一人がカリキュラム・マネジメントへの参画意識（カリキュラム・マネジメント・マインド）を高めることができた。
- カリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルを可視化することにより教職員の共通理解を図り、組織として同じ方向に向かって取り組むことができた。
- 地域学校協働活動推進員を活用した地域学校協働活動の実施や、学校運営協議会での意見の反映等、学校運営や教育活動をよりよくしようとするとともに、持続可能な教育課程の編成への意識が少しずつ高まってきている。
- 全国学力・学習状況調査や県学習状況調査の分析結果をもとに、学校全体で指導計画等の改善を図っている。
- 教職員一人一人のカリキュラム・マネジメントへの参画意識（カリキュラム・マネジメント・マインド）をさらに高めるための工夫や配慮が必要である。
 - 目指す子ども像や育てたい資質・能力について、トップダウンではなく、教職員全員で協議し決定することで、さらにカリキュラム・マネジメントへの参画の意識を高める。
 - 児童生徒自身に、校訓や目指す子ども像、育てたい資質・能力等をもっと意識させて教育活動に取り組ませることで、教職員と児童生徒が一体となったカリキュラム・マネジメントを展開する。
 - アンケートにより、教職員のカリキュラム・マネジメントへの参画意識の変容を把握し分析を行ったので、各実践校の弱点をどう補っていくか来年度の方向性を定めていく。
- 市教委で発行している教育情報誌「ふいご」による実践校の取組の紹介や、校長会・教頭会での資料提供等、本事業に関する情報提供を行ってきているが、地域全体に広げるためにはまだまだ不十分である。
 - 今後も継続して情報提供していくとともに、実践校の取組について発表する機会を設定したい。

4. 参考資料

- ・第1回カリキュラム・マネジメント検討会議資料
- ・第2回カリキュラム・マネジメント検討会議資料
- ・カリキュラム・マネジメント検討用シート（アンケート）

- ・アンケート分析
- ・能代市教育委員会教育情報誌「ふいご」